

## 第16回病院広報研究会

# コミュニケーション・ミックスを意識した広報活動への 展開

法人名・施設名

名古屋第二赤十字病院

職責・職名

管理局 業務部 企画課 主任

発表者氏名

高木真理子

演題名：

## コミュニケーション・ミックスを意識した広報活動への展開

当院の広報誌は平成11年9月から平成22年3月までは「八事日赤ニュース」という名称で季刊発行していました。4ページ、フルカラー、新聞形式の大判サイズで、院内に設置した際のインパクトも大きく多くの読者を獲得していました。しかし長期に亘る発行により「情報の固定化／自院の活動報告のみ」「デザインの単調化／新聞形式の限界」「手軽に読む、持ち帰るのに不便／サイズが大きい」等さまざまな問題が顕在化してきました。

そして平成22年4月、それらの問題を解決し、さらなる読者の獲得をめざし「Future 8510」としてリニューアルを果たしました。そのコンセプトは、単なる「病院のお知らせ」から「医療・健康に関する情報誌」への展開。医療・健康を通じた生活全般、地域社会の活動へと視野を広げる事で、より安心な地域社会、より良い医療、より健康的な生活を実現に役立つ編集をめざしました。編集方針は、読者の生活に密着した「読んで知識」「知って行動指針」となる情報を提供すること。患者さんからは「楽しみにしている」「地域医療の問題点が分かった」等のお声を頂戴しており、院内からは「部署の活動を紹介して欲しい」という要望が続出し、リニューアルの手応えを実感しています。

また平成23年9月には東日本大震災の救援活動をまとめた臨時増刊号を発行しました。自院から支援に向かった医師等への取材に留まらず、院長、副院長と共に企画課スタッフが宮城県・石巻へ取材に赴き、編集しました。発災時の地域医療の実情、救援活動の実態、見えてきたさまざまな課題等を詳細にまとめる事ができました。日本赤十字社内でも貴重な記録であると高い評価を受けました。今後、当院のある東海地方において高い確率で発生が予測される東海・東南海地震の対策において、我々の考察が微力ながら役立てば幸いです。



# 広報の目的：

広報誌「Future8510」の主な目的には2つの側面があると考えています。

まずは当院が使命を全うし、地域に期待される役割を果たすための環境作りという側面。そのためには生活者・患者さん・他の地域医療機関等に当院を正しく知っていただく必要があります。当院の活動に基づき病気や治療、さらに今日の医療・福祉・介護等諸制度の変化に対する正しい情報を発信し、生活者に医療の賢い消費者としての自覚を醸成することをめざしています。地域の財産である各地域医療機関を生活者が正しく利用することが、より安心な地域社会を築くための一歩だと思えます。

もう一つの側面は、地域に信頼される病院として、いざという時に頼りになる、かつ親しみが持てる存在として認識される事。日本赤十字社の一員としての支援活動や、地域の方々と共に取り組む院内外での大小さまざまなイベント等をご紹介することで周知を図っています。

これらは、地域の基幹病院の広報誌のめざすものとして、重要な要素であると考えています。

# 広報のプロセス：

リニューアルに際しては、すでに院内外に定着している名称「八事日赤ニュース」をそのまま使用するか、変更するかという議論が交わされました。その結果「より良い医療と、健康的な生活への願い」を込めた新たな名称「Future8510」へと一新することになりました。新名称を決めるにあたっては読者に愛着と期待感を抱いてもらうために院内で患者さんや職員を対象とした新名称公募キャンペーンを実施しました。応募の中から「Future」という案を採用し、我々企画課でアレンジを加え、読者と病院の共作として「Future8510」という名称が生まれました。

生まれ変わった広報誌の制作プロセスとしては、まず企画課のメンバーと広報企画会社のスタッフとで編集会議を行い、各コンテンツの企画を固めていきます。企画段階で院内スタッフだけでなく患者・生活者の感覚を持つ外部の人と意見を交わす事で、「病院の知って欲しい」と「患者・生活者の知りたい」とを結びつけたいと考えています。

企画が固まった後は、企画課のメンバーで院内各部署に趣旨を伝え協力依頼をして、取材・撮影を実施します。特集／Special Reportの写真は、表紙のメインビジュアルとなり、その号の顔となる重要な要素です。毎回、臨場感と躍動感のある当院の鼓動が感じられる写真をめざし各部署に協力を仰いでいます。

また地域にある患者さんや当院と関わりの深い施設や、公共性の高い施設を積極的に紹介することで、地域に支え支えられる当院の姿や、当院の地域に対する愛着心、大切に思う心をアピールしています。



# 広報の成果：

「Future8510」が着実に地域の読者と近づけていることはバックナンバーを取りに来る方が増えていることからもうかがえます。そのために院内の赤十字インフォメーションセンターでは、バックナンバーを含め自由に閲覧及び配布が可能となっています。特に震災の特集号については従来の発行部数の3倍となる3万冊が配布され、一部では講演会や研修会の場から提供の依頼を受けたり近隣の看護学校の授業の教材としても利用されています。

これらのことを踏まえ、病院の広報誌のアーカイブバージョンを「八事日赤広場」<http://nagoya2-community.net/> に紹介してより広く広報誌を他の地域へ発信できるようにしました。最近ではGoogleによるヒット数も多く確認されています。

地域密着の広報誌として、市民公開講座など当院主催の予防医学等の講演を盛り込んだ記事などにより地域住民の参加意識が高まり、年間を通じた地域交流の場では年々参加者が増加し、当院のミッションの一つ「社会に貢献するモラルの高い病院」を広報誌を通して着実に勧めてまいりました。従来は入院患者さんや外来患者さんを中心として読まれてきた誌面でしたが、現在では、近隣のコンビニ・郵便局・バス停等地域の一般にも配布場所が広がり、着実な成果が確認できています。